

学林舎情報

NO. 153

共創ネットワーク

●発行日：2015年4月18日（土）

〒661-0035 兵庫県尼崎市武庫之荘3-19-3 TEL 06-4962-5876 FAX 06-4962-5877 e-mail info@gakurin.co.jp

発行：教材出版 学林舎



学習現場から 年長でも使えますか？

学習現場から GTシリーズどこから？

【ご質問内容】

4月より小学2・3年生になる生徒に『成長する思考力GTシリーズ』を使って指導したいのですが、算数・国語ともに10級よりスタートした方がいいのでしょうか？ 何級から始めるとよいなどアドバイスがありましたら、お願い致します。

【学林舎からのご提案】

小学校低学年の生徒さんには、基本的には10級から順に学習を開始していただくことをご提案致します。理由としては、できる基礎知識も成長する思考力GTシリーズのような考える問題にあたりできなかつたり、うまく考えられなかつたりすることがありますので、10級から学習することをおすすめしています。

ただ、こういった思考的な問題、考える問題を学習した経験、学校での学習では物足りないという生徒さんに関しては、10級の場合、小学校1年生範囲の学習になっていますので、9級からの学習も可能かと思えます。

- *成長する思考力GTシリーズ国語・算数10級(小学校1年生範囲)
- 成長する思考力GTシリーズ国語・算数9級(小学校2年生範囲)
- 成長する思考力GTシリーズ国語・算数8級(小学校3年生範囲)
- 成長する思考力GTシリーズ国語・算数7級(小学校4年生範囲)
- 成長する思考力GTシリーズ国語・算数6級(小学校5年生範囲)
- 成長する思考力GTシリーズ国語・算数5級(小学校6年生範囲)
- 成長する思考力GTシリーズ国語・算数4-1級(中学入試範囲)

【ご質問内容】

現在、幼稚園の年長で、数字、ひらがな（自分の名前も）が、かけない子どもがいます。数字を読んだり、数を数えたり、多い、少ないはわかるようです。その子の教材について、相談を受けたのですが、「とろびた」は年齢的には、合っているようですが、内容的にはそのお子様には、難しいのでしょうか？

【学林舎からのご提案】

この時期の子どもの成長段階は、個々によって格差があるため「とろびた」が活用できないケースもあります。

ご指導される生徒さんは、短い文章を読み聞かせたりして、内容を理解することは可能でしょうか？理解することが可能であれば、「とろびた」を読み聞かせながら、使っていただくことは可能かと思えます。（*周辺教材として「ひらがなのせかい」もご利用可能かと思えます。）

また、先生がしたことを「まねる」という方法をそのお子様ができるのであれば“知”を吸収していくスピードも高まると思えますので、「とろびた」の学習効果も高まっていきます。ただ、私自身、状況がよく見えない部分もありますので、子どもの反応を見ながら、何ができて、何ができないかを分析していただき、お子様の成長段階にあわせて、学習指導をしていただければと思えます。



学習習慣・リズムをどうつくっていくか!?

学習カリキュラムを考える

生活に習慣・リズムが大切のように、学習においても習慣・リズムは大切です。大人になればよくわかるのですが、「子どもの時に学習習慣・リズムがしっかり身につけていけば、もっと“学ぶ”ことに対して苦勞しなかった」と。学林舎の成長する思考力G Tシリーズを継続的にご利用いただき効果を実感しているお子様の話をお聞きすると「朝、学校行く前の30～40分を毎日」「夕食前の30分を毎日」など。これは、すべての“学び”に通じる“継続は力を生む”につながっていきます。積み重ねることによって、人は“学び”を“体験から経験”につなげていき、継続、進化（深化）しつづけた人が“プロフェッショナル”と呼ばれる領域に達します。

子どもの時の生活習慣・リズムはもちろんのこと、学習習慣・リズムを身につけられるかが“成長の鍵”といえます。

(北岡)

朝学習カリキュラム 未就学児童・小学校低学年編

未就学児童・小学校低学年の子どもの多くは、学習習慣・リズムができていません。そのため、「朝学習」することで学習習慣・リズムを意識させます。朝学習の延長線上には、子どもが成長していく中で、学校へ進学、試験や入試、就職、そして社会での仕事。これらの多くは、午前中から始まります。朝からしっかり準備し、思考することが“成長の伸びしろ・鍵”になります。

時間：20～30分 *子どもの状況を見て、学習時間を伸ばしてください。

A	B	C	A
5分	10～15分	10～15分	5分

時間を決めて1ページ、1問で構いませんので、継続することを朝学習の場合はお考え下さい。

A ウォーミングアップ・クールダウンー頭の体操

○学習内容：計算、漢字トレーニング、自由読書、辞書引き、パズル学習、習字など。

○オススメ学習素材：成長するドリルいきる計算・いきることば・いきる教養、ひらがなのせかい。

運動する前後にウォーミングアップ、クールダウンが必要なように、学習現場ではウォーミングアップ、クールダウンを取り入れています。

B・C 読解・思考力学習

○学習内容：考える学習。

○オススメ学習素材：成長する思考力G Tシリーズ
国語・算数・とろびた

学習の基本のひとつに“考える”“考えさせる”があります。考えることが習慣づき、考えることの幅が広がることによって、社会にでたときに様々な状況に対して対応できます。G Tシリーズは、読解力、記述力、論理力など育成はもちろんですが、子どもたちに“考える時間＝考える学習”創出する素材です。

学林舎では朝学習を塾のカリキュラムに入れることを推奨しております。

国語を 考えてみる

文／学林舎国語顧問 森本 秀俊

ああ、素晴らしき哉、日本語⑫

小 学校のときに学んだ歌に「春の小川」という唱歌がありました。

春の小川は、さらさら行くよ。
岸のすみれや、れんげの花に、
すがたやさしく、色うつくしく
咲けよ咲けよと、ささやきながら。

この歌を初めてきいたとき、「さらさら」という言葉がとても印象に残ったことを覚えています。「さらさら」という言葉は「擬態語」と呼ばれるものです。「擬態語」は「事物の状態や身ぶりなどの感じをいかにもそれらしく音声にたとえて表した語」です。「さらさら」という言葉には、大きくは5つの意味があります。

- ① 物が軽くふれあつてかすかに音を立てる様子。
- ② 水などが浅いところをよどみなく流れる様子。
- ③ 茶漬けなどを軽やかに食べる様子。
- ④ 物事がつかえずにはかどるさま。すらすら。
- ⑤ 物に粘り気や湿り気がなくさっぱりしている様子。

たった4文字のひらがなで、これだけ多くのイメージを人々に植えつけることができる「さらさら」、恐るべしです。そして、日本語は擬態語が非常に多いことで知られています。例えば、何かを見るときの様子を表す擬態語です。「その小さな男の子はきょろきょろとあたりを見まわした。」の「きょろきょろ」。男の子の落ち着かない様子が表れていますね。「男はぎろっと相手の目を見つめた。」は、「ぎろっ

と」を使うだけで、今からけんかが始まるんじゃないかという予感がしますね。北野武監督の「アウトレイジ」という映画で使われそうな表現です。「まさるは、さやかの横顔をちらっと見た。」だと、まさるという若者が、さやかに淡い恋心をいだいていて、授業中に隣の席に座っているさやかをじっと見つめるのが恥ずかしいので、申し訳なさそうにちょっとだけ見て、ドキドキしている様子がうかがえます。少し、想像しすぎでしょうか。「じろじろ」「じろっ」「ぼんやり」「まざまざ」「まじまじ」など、「見る」ことを表す擬態語には、他にもたくさんものがあります。

それでは、私が「きれいだな」と思う擬態語を紹介していきましょう。

「あたりがひっそりと静まりかえっている様子」を表す「しんしん」はいいですね。「夜はふけていった。」にこの言葉を加え、「夜はしんしんとふけていった。」とするだけで、私には、北国の雪が降り積もった山里の、時間が止まったような静寂の光景が目にかびます。

「ほくほく」は、幸せを感じさせる擬態語です。「絵画コンクールに入賞して、ほくほくした顔になる。」という文を見れば幸福感に満たされます。「ほくほくしたふかしいもから白いゆげがたっている。」もう、すぐにでもかぶりつきたいですよ。

「とつぷり」という言葉も好きです。「とつぷりと日がくれる」、「温泉にとつぷりつかる」。「とつぷり」を加えるだけで、イメージがぐんと広がります。

最後に「ほろり」という擬態語です。この言葉は演歌っぽくて大好きです。「相手の身の上話を聞いてほろりとする。」ほろりとした人のやさしさがにじみ出てくる表現です。「きれいな女将にすすめられた地酒を口にしてほろりと酔う。」男の人でしたら、日本人に生まれてよかった、と感じる瞬間かもしれません。

「擬態語」の魅力はつきることがありませんね。

ああ、素晴らしき哉、日本語。(つづく)

算数・数学から見える世界

文／学林舎算数・数学顧問 深見 和孝

もうそろそろ、今年の全国学力テストが行われるようです。全国学力テストといえば、前回のコラムで書いたように滋賀県議会で話題になりましたし、最近では、大阪府の高校入試で学力テストの結果を内申点に反映するとかで、ニュースネタになっていました。何せ、全国の小学6年生と中学3年生各100万人が受けるという大規模なテストですから、何かと注目を集めます。まあ、学力テストを実施する方としては、そっと見守っておいてほしいのですが、

そこで、今回は、昨年実施された算数B(小学6年生用)の問題を1題取り上げたいと思います。以前のコラムでもネタにしたので恐縮ですが、今回は滋賀県知事の「小5の割合でつまずきが多い。」という発言を受けて、割合の問題をネタに、本当に割合でつまずく子が多いのか、割合は難しいのか、そんなことを考えてみたいと思います。なお、学力テストの問題文を一部書き変えたり、イラストを省略していることをご了承ください。

【問題】 使いやすい箸(はし：ご飯を食べる箸です)の長さの目安は、「一あたま」(ひとあたま)と言われています。一あたまは、親指と人差し指を直角に広げたときのそれぞれの指先を結んだ長さです。(私の場合は、およそ18cmです。)一あたまは、一あたまを1.5倍した長さです。

Aさんは妹の箸を買いに行くのに、一あたまの長さについて調べると、「一あたまは、身長(身長)の約10%の長さ」とわかりました。妹の身長は140cmです。

妹の身長と、使いやすい箸の長さの目安をもとに、一あたまの長さを求めると、箸の長さは約何cmになりますか。求め方を言葉や式を使って書きましょう。また、答えも書きましょう。

では、先に正答を言いますと、「まず、妹の一あたまの長さを求めると、 $140 \times 0.1 = 14$ で、約14cm」「次に、妹の一あたまの長さを求めると、 $14 \times 1.5 = 21$ で、約21cm」と2つのことが説明できて答えが21cmであれば正解となります。

この問題を初めて読んだとき、60%くらいの生徒が正解したのかな、というのが私の感覚でしたが、皆さんは、どう予想されますか？文科省は問題ごとの正答率を詳しく公表していきまして、ホームページからいつでも見られるようになってきました。それによると、この問題の正答率は、33.3%、つまり、3人に1人の割合で正解したということです。予

想通りという賢明な方もおられるでしょうが、私の場合は、え～まずいだらう、なんて思ってしまいました。これは最終問題なので、時間が足りずできなかった生徒が多かったのでは？と考えましたが、無解答率(何も書かなかった生徒の割合)は13%でしたので、そういうことでもなさそうです。答えだけが正解で、説明を書かなかった生徒が多かったのでは？とも考えましたが、答えが合っていた生徒は36.2%ということで、答えが合っていた生徒のほとんどは説明も合っていたということです。興味深いのは、妹の一あたまの長さだけを求めて14cmで答案を書き終えている生徒が28.4%もいたそうです。また、この問題にはもう1つ設問がありまして、「一あたま(一あたまの1.5倍)を表している図を4択で選ぶのですが、その正答率が46.3%であり、一あたまを一あたまに1.5cm足した長さにした図を選んだ生徒が28.4%です。

話がややこしくなってきましたが、大雑把に言えば、6人の生徒がいて、そのうち一あたま(1.5倍)をイメージできた生徒は3人、身長(140cm)の10%が計算できた生徒は4人、10%の計算ができて一あたまもわかった生徒が2人だったということでしょうか。

改めて問題文を読み返してみると、140cmの10%という百分率の部分は60%強の生徒ができていたということですから、間違いのもととは前半の「一あたまは、一あたまを1.5倍した長さです」にあるのではないかと思います。「一あたま」というのは長さの単位ではあるのですが、1cmのように誰にとっても同じ長さというわけではなく、人によってバラバラです。そこに出题者の意図があって、生徒にとって見慣れた10%の長さに、初めて見た「一あたまの長さ」「一あたまの割合」が混じって頭が混乱した、ということなのでしょう。私の場合、「一あたま」という言葉は初めて知りましたが、指を開いて長さを測ることはよくやるので、簡単な問題に思えたのかもしれませんが。

さて、この正答率33.3%は、「割合でつまずく生徒が多い」ことを示しているのでしょうか？そのあたりのところを、次回のコラムで考えてみたいと思います。

(つづく)

クロスロード Crossroad

第44回 文／吉田 良治

シアトル・マリナーズ 『D.R.E.A.M Team プログラム』 2年目に突入

シアトルマリナーズが地元の小学校を支援するプログラム『D.R.E.A.M Team プログラム』があります。シーズン中であってもホームでの試合開催時には、スタジアムから移動20分程度の小学校を訪問し、プログラムを提供しています。さらにシーズンオフにはキャラバン隊を結成し、ワシントン州の遠方の町の小学校を訪問し、プログラム提供を行っています。

D.R.E.A.Mの意味として、DはDrug Free（薬物防止）、RはRespect（尊敬）、EはEducation（教育）、AはAttitude（姿勢）、MはMotivation（やる気）で、夢の実現に必要な要素をこの5つの言葉に絞り、選手やコーチたちが子どもたちの夢の実現に必要な助言を与え、夢の実現をサポートするものです。

3年前に朝日新聞の記者よりアメリカ取材のお手伝いを依頼され、アメリカの大学スポーツで関係する3つの大学を訪問しましたが、その際マリナーズの『D.R.E.A.M』を取り上げてみては、ということで、このプログラムを担当するスタッフへ取材を試みました。その翌年もマリナーズの担当者へ個人的に面談を依頼し、このプログラムを日本でも展開したいこと、その許可をいただきたい、というリクエストをぶつけてみました。担当者からは快く了承を得て、日本でのプログラム実施のサポートをいただけることになりました。

昨年1月から大阪市内の関目東小学校の放課後授業『いきいき活動』で、テスト的にプログラムを実施してみました。子どもたちの反応もよく、昨年四月より本格的にプログラム提供を行ってきました。そして2年目となる今月からは、関目東小学校に桃陽小学校を加えた2校での実施に広がりが出てきました。日本の子どもたちにとっても、将来どんな大人になりたいのか、その夢の実現に必

要な支援として、シアトルマリナーズの取り組んでいる『D.R.E.A.M Team プログラム』は、とても重要な役割があると思います。

2年目を迎える関目東小学校では、フェーズ2として具体的な夢の実現に向け、子どもたちが夢の作文を作成し、現在FM大阪と大阪府教育委員会『こころの再生府民運動』との共催番組『みんなともだち』で、夢の作文を発表しております。人前で話をするということはとてもプレッシャーがありますが、スタジオというクローズの空間で、いつも放課後教室を支援する教員や私がそばにいていて、子どもたちはのびのびと自分の夢の作文を発表できています。収録番組ということで、失敗してもやり直しや編集で修正できる！ということもあり、プレッシャーを軽減できたことも子どもたちには好評です。収録を終えて生放送中の番組見学になると、子どもたちはスタジオの窓越しに、番組DJに手を振りながら交流、生放送の中で『関目東小学校のこどもがスタジオ見学をしている！』と紹介もされ、おおはしゃぎをしている姿に、子どもたちはとても貴重な経験をしていると感じています。

放送日に自分の声がラジオから聞こえてきて、多くの人たちに自分の夢を共有できることは、子どもたちにポジティブな意識が芽生えているように思います。最初は作文発表を躊躇していた子どもたちが多かったのですが、今回の収録に向け希望者が急増してきましたので、できるだけ多くのこどもの夢の実現の支援として、FM大阪の番組との連携を強化していければと思います。また、新しい実施校の東陽小学校のこどもたちも、早い段階でFM大阪の番組参加できるよう、しっかりサポートをしていければと思います。

今年はさらにプログラムをブラッシュアップしていき、新たなチャレンジに向け準備も始めようと思います。具体的に中身が固まりましたら、またこのコラムでご紹介したいと思います。（つづく）

吉田良治さんプロフィール

1962年生まれ。1998年にワシントン大学へアメリカンフットボールコーチ留学。2000年リーグ制覇、2001年ローズボウルに出場し、ローズボウル制覇に貢献。国家レベルのリーダーシップ教育に貢献した、ランブライト元ワシントン大学ヘッドコーチよりリーダーシップ教育を学ぶ。
全米の大学で人格形成プログラム普及に貢献した、ライス元ジョージア工科大学体育局長よりライフスキル教育を学ぶ。

吉田良治さんBlog
<http://ameblo.jp/outside-the-box/>